

2018年8月30日

町田市長
石坂 丈一 様

町田市環境審議会
会長 川瀬 博

「第二次町田市環境マスタープラン」、「町田生きもの共生プラン」
2017年度進捗状況の点検評価について（報告）

第71回（2018年7月10日開催）、第72回（2018年8月10日開催）町田市環境審議会において、「第二次町田市環境マスタープラン」及び「町田生きもの共生プラン」の2017年度進捗状況の点検評価を行いました。その結果を、以下のとおり報告いたします。

記

1 総括

「第二次町田市環境マスタープラン」は、2017年4月に策定された「後期アクションプラン」に基づき、目標の達成に向けた取り組みを着実に推進しなければならない。

「後期アクションプラン」に掲げられた重点事業、その他の施策については、一定の進捗が見られ、概ね評価できる。一方で、地球温暖化の防止など、基本目標の中には、達成目標の実現に向けた取り組みとしては不十分なものが見られ、その方策について多角的な検討が必要である。

環境学習や環境イベントへの参加率が増加傾向にあることに対して、環境に配慮した行動を行っている市民の割合が減少している点は問題であり、今後は、より広く市民を巻き込む施策展開が求められる。

また、2015年度に運用を開始した「町田生きもの共生プラン」においては、生物多様性の保全を推進するため、4つの基本方針とそれに沿った目標の達成に向けて、重点プロジェクト及び施策を効果的に推進していくことが重要である。その成果は、市民への普及啓発や多様な主体との協働・連携をとおして、少しずつ表れていると考えられる。

「第二次町田市環境マスタープラン」及び「町田生きもの共生プラン」の両プランともに、自然環境が残る町田市の魅力が市民に理解されている点は評価できる。引き続き、市の特徴を生かした取り組みを進め、生きものや自然とふれあえる場や機会を確保していくことが望まれる。

2 評価および意見

2017年度の進捗点検は、「第二次町田市環境マスタープラン」の5つの基本目標ごとに、行った。この内、「基本目標2：自然環境と歴史的文化的環境の保全」には、「町田生きもの共生プラン」の評価も含めることとした。評価点は、5点を「評価できる」、3点を「普通」、1点を「評価できない」とし、各委員の評価をもとに、評価意見及び提案等をまとめ、審議会としての評価とした。2017年度の評価及び意見は以下のとおりである。

基本目標1 地域で取り組む 地球温暖化の防止	評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年3月以降、化石燃料使用による発電割合が増加したため二酸化炭素排出量の削減が難しくなっているが、市民一人あたりのエネルギー消費量が減少傾向にあるのは評価できる。 ・再生可能エネルギーの普及やマイカーの使用抑制が達成目標となっているが、そのための重点事業がなく、再生可能エネルギーの普及については啓発のみとなっているなど、達成目標の実現に向けた取り組み内容として不十分である。
	提案事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「みどりのカーテン」事業については、設置場所に関する啓発活動について力を注いでいただきたい。 ・地球温暖化に対する市民理解醸成のため、すべての年齢層へのアプローチとなる学校教育や地域の活動（町内会・市民サークル等）における恒常的な浸透啓発活動を進めていただきたい。 ・「わたしのエコ宣言」については、町田市役所のホームページから直接登録できるなど利便性をもっと良くしてはどうか。 ・太陽光発電はある程度普及しているため、今後は太陽熱利用システムや蓄熱システムの普及拡大に取り組んでどうか。 ・電気自動車は充電施設の拡大に向けた施策等、今後も普及促進が必要である。 ・ヒートポンプ（エコキュート）の導入支援、情報提供は施策実現に向けて有効である。 ・マイカー使用をできるだけ控える市民の割合が毎年減少しているなどの課題があり、市民の環境配慮行動の推進に努めていただきたい。
評価	3.1	

<p>基本目標2</p> <p>自然環境と歴史的文化的環境の保全</p>		<p>評価理由</p> <p><第二次町田市環境マスタープラン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水辺とのふれあいに満足する市民の割合及び生きものに関心のある市民の割合が大きく増加している。都心部にはないみどりの豊かな自然環境が残る町田市の良さが理解されていると考えられ、そうした特徴を生かした多様な取り組みが評価できる。 ・北部丘陵の整備については、田中谷戸、東谷戸などの里山保全の取り組みや、手入れの届かない山林の再生保全など、後世に残せる大切な事業として評価できる。 ・水辺の魅力の発信については、年度目標を達成する結果となっているが、水辺とのふれあいについて満足している市民の割合が、基準年度と比較して増加しているものの、前年度と比較してやや減少している点は留意を要する。 <p><町田生きもの共生プラン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きものに関心のある市民の割合が大きく増加しており、また、生きものや自然とふれあえる場や機会が多くある点が評価できる。 ・地域の持続可能な発展のために重要な取り組みであり、地道な活動が少しずつ成果をあげていると考えられる。今後は、より多くの市民に伝わるよう取り組むことが課題である。 ・「生きものストップ」の設置については、当初の計画とおりの進捗となっていないが、「設置」より「あり方」の検討を重ねている点では評価できる。
<p>評価</p>	<p>4.1</p>	<p>提案事項</p> <p><第二次町田市環境マスタープラン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水辺の魅力発信のイベントは、市民団体や大学と連携し共催してはどうか。 ・自然と触れ合う企画などが町田市の北部に集中しているように感じるが、町田市の南部でもたくさんの企画を行っていただきたい。 ・観光交流拠点を活用したイベントの実施を強化していただきたい。 <p><町田生きもの共生プラン></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報拠点のあり方を検討する中で、公設民営方式だけでなく、民設公営方式も検討していただきたい。また、その名称については伝わりやすいものを検討いただきたい。 ・情報拠点機能の充実には緑地や水辺を管理している市民団体と協働して生息している生物等の紹介プレート設置から始めてみてはどうか。 ・生物資源利用促進は、活用している団体の収入になるような事業になるのが理想である。 ・ピオトープ作庭イベントは学校を拠点にしてはどうか。 ・元々興味の無い市民が取り組みに関心を持つためには、駅などの人が集まる場所での情報拠点設置やチラシ配布など、攻めの姿勢が必要である。 ・親を巻き込み、子供たちに自然と多く触れ合える場や機会を作る必要がある。 ・市民の参加と協力を得るため、市報でのPRの他、学校、自治会などの団体へのアピールが必要である。 ・「人材育成」については、時間・知恵・意欲がある高齢者を活用してはどうか。 ・「意識高揚」について、ホームページだけでなく、ポスターやマスコミの利用など効果的なPRを行ってはどうか。 ・市民が参加できる生物多様性フォーラム、生きもの調査、ピオトープ作庭イベントなどの内容を充実させPRを積極的に行っていただきたい。

基本目標3 持続可能な循環型 社会の構築	評価理由	<ul style="list-style-type: none"> 一人あたりのごみ処理量は減少しているが、ごみ処理量や資源化率は達成目標の実現にはほど遠く、施設整備が遅れていることは低い評価とせざるを得ない。 ごみ処理量や資源化率などの達成目標の実現が施設整備に大きく依存しているにもかかわらず、指標の変更を含め、施設整備が遅れることに対応した取り組みが見られない。 食品ロスの啓発等、各種キャンペーンの実施は年度目標を達成しており、評価できる。
		提案事項 <ul style="list-style-type: none"> 市民に循環型社会を意識付けるには、縛りだけではなく、「良かった」と感じさせること（インセンティブ）が必要ではないか。そのための方策を考えていただきたい。 生ごみの減量について、エコ農産物制度や市民農園等と連携した生ごみ処理機の普及促進を図ってはどうか。また、より手軽な処理方法であるダンボールコンポストについて、利用者の拡大を進める方法を検討してはどうか。 ごみの処理費用を周知することで、市民にごみ減量を呼びかけてはどうか。 使い捨てプラスチックの削減のための企画をもっと増やすとよい。
評価	2.9	
基本目標4 良好な生活環境の 創造	評価理由	<ul style="list-style-type: none"> 達成目標、重点事業、その他の施策のすべてにおいて、一定の進捗が見られることは評価できる。 居住地の周辺環境に満足している市民の割合が減少している点が問題である。市民が感じる「良好な生活環境」には道路・歩道等の整備、ライフラインの確立が大きいと考えられるが、そうした点に充分に対応した事業が必要である。
		提案事項 <ul style="list-style-type: none"> アンケートの「不快である項目」の点検をさらに進めていただきたい。 居住地の周辺環境の快適性について、アンケート結果の「どちらともいえない」の理由がわかるような質問もあるとさらに良好な環境の創造につなげられるのではないか。
評価	4.0	
基本目標5 環境に配慮した 生活スタイルの定着	評価理由	<ul style="list-style-type: none"> 環境副読本や子ども向け環境講座など、子ども達が環境に関心をもってもらうよう、いろいろ試みられている点は、評価できる。 環境に配慮した行動を行っている市民の割合が減少している点は問題である。 「市民啓発」や「学校教育」は、イベント等を実施したことのみで評価すべきでなく、効果が得られたかどうか重要であるが、効果を測定するのが困難である以上、少なくともイベントへの参加割合が低いことは大きな課題である。
		提案事項 <ul style="list-style-type: none"> まちだエコ宣言事業者を増やしていくため、制度のPRの回数を重ねていただきたい。 環境学習イベントや環境イベントは、参加者の満足度は高いが、まだまだ存在を知られていない。もっと広く広報する工夫が必要である。 市民が「行動による効果が実感できない」ことについて、行政サイドとして何をすべきか、どう行動をとるべきかを考えなければならない。効果が「お金」でわかるようにするなど、貢献した実感があれば、積極的に環境に配慮した生活をめざせるのではないか。 生ゴミの堆肥化等、農業者との協働と環境学習が融合した企画があるとよい。
評価	3.4	
全体		<ul style="list-style-type: none"> 環境マスタープランの進捗について、大きな底上げを図るためには、環境に関心のある市民だけでなく、広く一般市民を巻き込むような施策展開や事業実施が必要である。 <p><資料について></p> <ul style="list-style-type: none"> 指標の変化の因果関係を施策導入と絡めて考察するとよりわかりやすい資料になる。 資料間で進捗度の設定を整合させた方が誤解が少ない。 基本目標5達成目標②等、資料中の表現は適切なものに修正されたい。